

「戦争体験」を紙芝居で語っていただきました！



(後列・左から) 山本さん、津田さん
(前列・左から) 前田さん〈市社協〉、木村さん、上村さん、道本さん〈市社協〉

1/15(金)、以前から交流のある市社会福祉協議会の計らいで実現しました。野田原在住・上村正次さんが「満州開拓少年義勇軍」に志願し、従軍先の満州で敗戦を迎え、命からがら日本に帰還した実話を紙芝居に仕上げたものです。上村さんを中心に4人で新ユニット“赤い夕陽グループ”を結成。語り手は、日頃、朝の読み聞かせでお世話になっている朗読サークル“さわらび”メンバーでもある木村百合子さん。感情豊かに語ってくださいました。また、当時を彷彿させる起床ラッパの演奏を織り交ぜ、臨場感あふれる上演となりました。子供たちは、辛く過酷な抑留生活の様子に真剣に耳を傾けていました。上村さんは当時14・15歳、自分たちとそう違わない、そんな年齢で従軍したことに、まずは驚いたのではないのでしょうか。そして、改めて平和のありがたさ、命の尊さを感じたようでした。

当日は、NHK和歌山放送局などの取材もあり、子供たちは「戦争ほど悲惨なものはない」などと感想を述べていました。



←当時の飯ごうです。この飯ごうで仲間の食料を調達するため、足を棒にして歩き回ったそうです。



インタビューに答える5A永井王芽さん

